

ふくしま県人会だより

第42号
令和2年8月
福島県人会
北海道連合会

福島県人会北海道連合会会長

あいさつ

福島県人会北海道連合会

会長 田中 四郎



北海道内の各県人会の皆様には、御無沙汰を致して居ります。皆様には、御変わりなく御越しの事と存じます。連合会の総会が中止となりましたので、県人会だよりの御挨拶となりました。振り返りみますと、令和元年五月十八日開催の旭川での総会終了時より、函館福島県人会は、令和二年五月二十四日総会開催の

ために準備に入りました。函館湯の川温泉の会場場所のホテルも決まりました。三月中頃まで作業を進めて居りました。実施日迄残り二ヶ月もないのに、新型コロナウイルスの流行拡大が止まらず、会員の皆様の安全と健康を考えました時、総会を中止せざるを得ない結論となった次第です。準備する県北海道事務所も、我々連合会役員も、ましてや、担当函館福島県人会の小山会長を初め役員と会員の皆様には、これ程残念なことはなかったと思います。直ちに、各県人会に対し、三月十九日付で第四十八回の北海道連合会総会中止をお知らせ申し上げます。

さらに、第四十八回福島県人会北海道連合会総会は書面開催する旨の通知を四月二十三日付で事務局より郵送いたしました。書面総会資料は十ヶ月間も準備作業しておりましたので整理するだけで良い所でした。

議案の事業報告・決算報告・事業計画案・収支予算案については、書面表決書を添付して、六月十日まで

返送してくれる様に御依頼を申し上げて、第四十八回福島県北海道連合会総会資料一式を五月二十七日に各県人会に郵送致し書類配布を終了しました。今年の前半は、以上の様な業務を遂行して参りました。

北海道の福島県人会は、郷土福島県のふるさとの里山を思い、県人会の仲間と志しを同じくして、母県の発展と各々の県人会の発展に努力しようではありませんか。がんばりましょう。

今後共、皆様の御協力と御支援を賜ります様お願い申し上げます。御挨拶と致します。

連合会の活動

第四十八回福島県人会北海道連合会総会について

第四十八回福島県人会北海道連合会総会は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため書面開催となりました。

次回開催地については、今後開催する役員会で決定する予定です。

今回、長年県人会の発展に寄与された皆様に、福島県知事、福島県人会北海道連合会会長からの感謝状が贈られました。

【感謝状受賞者】

福島県知事

田中 四郎 様 (札幌市)

福島県人会北海道連合会会長

稲村 宗彦 様 (札幌)

稲村 サダ子 様 (札幌)

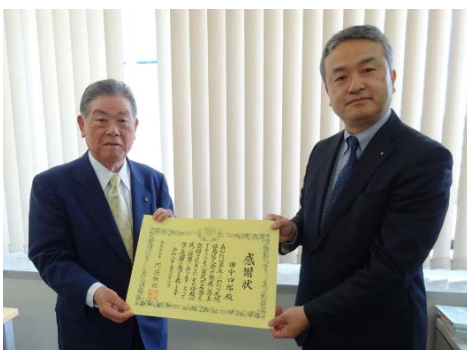
原武 ふみえ 様 (旭川)

佐藤 律子 様 (美幌町)

三津谷 能男 様 (千歳)

飯村 幸子 様 (千歳)

吉田 洋子 様 (千歳)



【長谷川所長から、田中会長へ県知事表彰の授与の様子】

会員通信

「札幌に住んで半世紀」
札幌福島県人会

副会長 清野 昭一

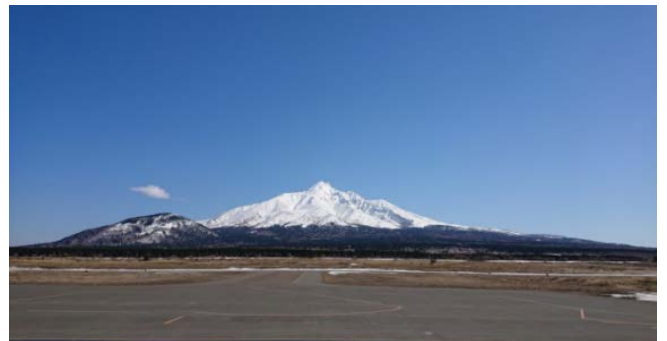
札幌福島県人会に入会したのは昭和六十年ですが、永らくは「幽霊会員」でした。県人会の行事に参加するようになったのは、平成七年頃であります。

出身地は福島市。福島を離れたのは大学に入学した昭和四十六年で、卒業後は福島へ戻ることなくそのまま就職して今日に至っています。平成二十五年三月に定年退職し、五年間の勤務延長を経て、現在は臨時職員として細々と働く年金生活者です。札幌での生活は来年で半世紀になります。

昭和五十四年に縁あって利尻町生まれの妻と出会い結婚。以来、毎年八月初旬に利尻島を訪れ、漁師をしていた義父の昆布干しを手伝いながら夏を過ごしました。福島へ行くのはもっぱら一月。子どもの冬休みが北海道は長いので、時期をずらして帰省していました。しかし、冬に福島へ行くと家の中が寒いので、子どもたちはよく風邪を引いていました。

子どもが成長するにつれ実家へ行く回数が減りました。義父は平成四年、父は平成二十三年に他界しましたが、義母と母はそれぞれの地で生活しておりました。ここ数年は義母と母が入退院を繰り返していたこともあり、利尻島と福島を訪れる機会が徐々に多くなり、平成三十年から三十一年にかけては月一回のペースで、飛行機で移動していました。そして、平成三十一年二月に福島の母が、四月に利尻の義母が相次いで亡くなりました。これで利尻と福島へ行く機会が減るのかなと思うと寂しい気持ちになります。「親孝行、したいときに親はなし」と申しますが、もつと会いに行けばよかったね、と妻と話しています。

最後に、皆さまはすでに「存じのこと」と思いますが、利尻島には「会津藩士の墓」が利尻町杵形種富町、利尻富士町鴛泊、ペシ岬、利尻富士町鴛泊本泊の三か所にあります。私は何十年も利尻島へ行っていますが、現地へ行く機会がありませんでした。次回令和三年四月、義母の法事で利尻島へ行く折には、是非とも「会津藩士の墓」にもお参りしたいと思っております。



【利尻富士】

「“美幌県人会だより”で
励ましを」

美幌福島県人会

会長 近藤 康弘



美幌地方も黄金色に実った小麦の刈り取りに、コンバイン機が朝早

くから夜中もライトを付けて、バッタンバッタンと音を立てながら収穫作業に励んでいます。

又近くでは、早出しジャガイモ掘りと玉ネギ作業も始まって、農家の収穫作業の原風景が見られるようになりました。

時の過ぎるのは早いもので、美幌福島県人会も令和二年二月二十三日午後四時より美幌グランドホテルに於いて、創立四十六周年の定期総会を開催し、福島県北海道事務所から長谷川利嗣所長、金田亮介主事、福島県人会北海道連合会より田中四郎会長が初めて参加され、北海道議会議員の高橋文明氏は多忙なため出席は叶いませんでしたが、秘書の東逸生氏がメッセージを読んで下さり総会に花を添えて下さいました。

宴も、福島県のおいしい酒と料理で、大きい声では言えませんが、4升も空いたという位に盛り上がり、近況を語り合いながらカラオケに集まった二十三名の笑顔がはじけて、また会うのを楽しみに解散しました。

二次会は、会員のナイトアカシアさんに十名で参加して歌を楽しみました。田中会長は十曲ほど歌い宴を盛り上げてくれたので、私も負けじと五曲カラオケを気分よく歌

いました。外は吹雪でしたが、店の中はほんわか笑い声がこだまして、二時間たっぷり楽しんで、店の美しい女性に送っていただき、解散しました。

その後はコロナ禍で、陽性の人が増え出して、集まることも出来ずに、全て中止となっておりますが、一番苦しんでいる時に励まさずして、いつ励ますことが出来るのかとの思いで、五月より「美幌県人会だより」を毎月会員の皆様に知らせしております。

又七月下旬には、六月二十一日に開催を予定していた、第四回美幌福島県人会フェスティバルが中止となったので、参加を予定していた協賛会員と県人会会員、来賓予定者と合わせて四十数名に、暑中ハガキを出させていただきました。

これからは福島県の負けじ魂で、何があっても負けてたまっか！との心こそ大切なれの如く、今後も笑顔で全員が会える日を楽しみに頑張ります。

「毎日のように家庭の菜園で

頑張っておる長老です」

美幌福島県人会

顧問 打地 健一



道東の地にもやっと春の訪れ、庭の木々も緑一色につつまれておる、今日この頃です。最近では東西南北コロナ、コロナ、の報道でいっぱいである。その上外出自粛とか、夢も希望もなくなつて来ている。

そんな中、我が家の家庭菜園には、馬鈴薯、豆、トマト、ナス、多種多様な苗を植えており、苗たちとたわむれている現状である。この前までは、サクランボの食べ放題であった。数か月後の収穫が楽しみです。

コロナの収束と、各県人会の皆様と元気な姿での再会を楽しみにしております。その節は、カラオケの美声、福島県の名酒で乾杯できることを念じています。

「北海道福島県人会の皆様へ」
美幌福島県人会

会計監査 佐藤 律子

福島県人会の皆様、お元気ですか。コロナウイルスに感染した方々に心からお見舞い申し上げます。コロナウイルスの影響で亡くなられた方に心からご冥福をお祈り申し上げます。

私の住む道東地区も、コロナの影響で仕事が激減しました。私達共々はホテルの管理等をしておりましたが、本社の都合で休業のため三カ月失業し、おかげさまでコロナ太りです。

県人会の皆さんも、失業した方も大変な時期を送っていたでしょうね。七月に入り、少しずつ勤務するようになった時が来ました。子供達も大変な時期を過ごしていると思います。各種イベントが中止（三密厳守）になり寂しいです。親御さんたちも大変でしたね。

私も孫たちの所へ行けず寂しい思いをしております。LINEでやり取りしていても、姿が見られず残念ですね。

一日も早く、コロナウイルスが終息することをお祈りします。思いきり友達と遊びたいですね。くれぐ

れも皆さんお体に「ご自愛ください」ね。いつかは福島へ遊びに行きたいと思えます。また北海道にも遊びに来てくださいね。

私もホテルの仕事に精一杯頑張ります。来道の際は、当店ホテル（あかの悠久の里 鶴雅）にご宿泊を！



【懇親交流会の様子】

「天野登恵 浜中町福島県人会

会長のご逝去を悼んで」

浜中福島県人会

事務局長 菅原 秀敏

(根室市在住)

浜中町福島県人会活動のため、多

大なご尽力をなされてきた天野登恵浜中町福島県人会会長が、去る令和二年五月十日午前九時過ぎ、誤嚥性肺炎のため、救急車で搬送された病院で急逝されました。享年八十三歳でした。

平成二十一年、当時副会長であった天野さんは、草野藤夫前会長の後を引き受け会長に就任され、爾来、青年団活動や町会活動で培った持ち前の行動力で浜中町の福島県人会を牽引され、縦横の活動をされて参りました。

特に、浜中町福島県人会は、会長就任時、会員は、浜中町はもとより、根室市を含め三十数名を数えました。そのため、この行動力で浜中町から根室市まで車を運転して、会員宅を回り、会員相互の絆づくりに尽力致しました。

また、毎年開催されていた福島県人会北海道連合会総会、道東三県人会の持ち回り合同観楓会にも会員を誘って、自ら運転し、全道各地を訪問されました。

しかし近年は、股関節脱臼などで入院を繰り返しましたが、昨年是一年以上の入院でありましたが、持ち前の責任感から入院先の病院から電話で連絡、指示を行い、県人会活動に努めておりました。

人生百年時代を迎えた今日、八十

三年という生涯は、惜しんでも惜しみきれない生涯であり、心からのご冥福をお祈り申し上げたいと思います。

「福島・そして川俣町にエール」

苫小牧福島県人会 田島 みつひ

作曲家 古関裕而をモデルにしたNHK朝の連続テレビ小説「エール」は、川俣で生まれ育った私にとっては懐かしく、親しみやすく、毎回食い入るように楽しく観ております。俳優の巧みな田舎言葉(方言)に子供心に還る気がします。

古関裕而が二年間勤めたという川俣銀行は今、東邦銀行川俣支店となり引き継がれております。川俣は福島から国道一一四号線を浪江方面へ二十キロ程のところ。私が中学校に通学していた頃、街はとても活気があり下校時のバス時間までよく商店街に寄り道をしたものです。

NHK「鶴瓶の家族に乾杯」でも紹介されておりましたが、機織の音、商店街の人波、とても賑やかで楽しかった思い出の町です。

絹の町として栄えた川俣の「道の駅シルクピア」には、絹製品や川俣シヤモの加工品が並んでおります。川俣シヤモは、千歳で一昨年開催さ

れた北海道連合会総会時の懇親会に川俣町長・社長が出席された折「シヤモ料理」を提供され、美味しく頂きました。現在、シヤモを飼育・加工している本社は、私の母校小学校の跡地にあります。

年々老いていく中で、郷里のことが話題になると大変うれしく又、語り合える県人会との出逢いに感謝です。

♪♪花塚の峰にのぼる朝日を
仰げば然ゆる我らが母校♪♪

古関裕而が作曲した私の母校川俣中学校校歌の一節です。

新会員の紹介

旭川県人会

條 元彦 様 (出身 福島市)

「暑かった福島」

赤い夕陽が公舎を染めて・・・が流行了した昭和三十八年、私は、学校を卒業後、社内教育を受けて福島勤務となりました。当時の福島駅は、一階が駅でステーションデパートとなっており、その中に私の仕事場がありました。

宿舎は福島交通飯坂線の福島駅

から十五分、笹谷駅の近くに間借りをしての通勤でした。

初めて福島の夏を経験しましたが、暑くて暑くて、夏負けをし、食事はご飯に水をかけ流し込んでいましたし、夜は睡眠不足等で十キロの減量となりました。ダイエットには効果があったかも。休みには楽器練習や映画、たまに郡山の兄の所に遊びに行きましたし、社内旅行で岳温泉にも行き楽しい思い出もあります。

同年九月には都合により自衛隊に入隊し仙台で教育後、北海道の千歳第七師団に配属され、その後第七師団音楽隊に転属、五年後には枝幸で地方公務員となり、定年後旭川に転居し現在に至っています。

木幡 光範 様 (出身 相馬市)

曾祖父が福島県相馬の町で生まれ育ちました。ご縁で、旭川県人会への申し込みをさせて頂いた所、ご承認を賜り誠に有難く御礼申し上げます。

コロナ禍が続く、今まで経験したことのない生活を余儀なくされているところではありますが、健康に感謝しながら皆様と県人会にて、我が郷土福島県の、あの土・あの光・あの山の色・あの海の輝き等、ご一緒

にお話しさせて頂ける日を楽しみにしております。

まだまだ若輩者ではございますが、今後とも「指導」「鞭撻」のほど宜しくお願い申し上げます。

重ねて御礼申し上げます。入会ご承認誠に有難うございます。

素野 悟 様(出身 旭川市)
新しく会員になることになりました。宜しくお願いします。

苫小牧県人会

小山田 渚 様(出身 石川町)
関根 久修 様(出身 須賀川市)
山口 勝次 様(出身 二本松市)

福島県からのお知らせ

全国新酒鑑評会にて、震災以降最多となる三十三銘柄が入賞しました。

独立行政法人酒類総合研究所が開催している令和元酒造年度「全国新酒鑑評会」において福島県から三十三銘柄が入賞しました。

新型コロナウィルスの影響で、最終審査の決着が中止となり、金賞は選定されませんでした。福島県は

新潟県の三十九銘柄に次ぎ、長野県と並んで全国二位の入賞数と、改めて福島県の酒造業者の高い醸造技術とたゆまぬ努力が高い評価につながる結果となりました。

金賞受賞数
七年連続全国
一位の記録更新について
は、残念ながら
ら次回に持ち
越しとなりましたが、全国
に誇れるお
いしい福島県
の日本酒を、皆
様も是非ご賞
味ください。



くだもの消費拡大委員会による

北海道でのものPRが
実施されました。

七月十五日(水)から十六日(木)の二日間、北海道内(旭川市・札幌市)にて福島県くだもの消費拡大委員会によるものPRが実施されました。福島県からはミスピーチキ

ヤンペーシクルー(高橋亜希さん、山田奈菜さん)をはじめ、主要産地である伊達市や桑折町、全農福島県本部、ふくしま未来農業協同組合が来道しました。新型コロナウイルスの影響により、例年実施されていた懇親会関係は中止となりましたが、フェイスガードやマスクを着用の上、市場や関係機関を訪問し、旬を迎える福島県産ものおいしさをPRしました。



【札幌中央卸売市場セリ台でのPRの様子】

福島県産ものPRイベント

「ふくしまプライド。ヨ 北海道」
を開催しました

令和二年七月二十一日(水)に、札幌市内で福島県産ものPRイベントを開催し、ミスピーチキャンペーンクルー(小松穂乃亜さん)や

HAPPYふくしま隊が駆けつけ、出荷の最盛期を迎えたものおいしさをアピールしました。

ステージでは、HAPPYふくしま隊による福島県のPRトークなどを行いました。

会場では、福島県産ものや、ももジュース、ままだおるなどの県産品、二本松市の地酒「人気酒造」の販売を行い、多くの方がおいしい福島のお酒ともを買い求め、大変な賑わいを見せました。

なお、イベントは新型コロナウイルス感染症対策を講じながら実施しました。



【ももの販売の様子】

道北アークスでの

「ふくしまプライド。」フェアが

開催されました。

令和二年七月三十一日から八月二日にかけて、旭川市及びその周囲のウエスタン、アークス、ビッグハウスにて、福島県産のももと米の販売を行いました。そのうちウエスタン三店舗ではガラポン抽選会も実施され、多くのお客様に楽しんでいただきました。

また、旭川県人会の圓谷清事務局長をはじめ、会員の皆様にも各店舗に足をお運びいただきました。



【ガラポン抽選会の様子】

新任職員紹介

福島県北海道事務所 次長

菅野 英二（出身 伊達市）



四月から北海道事務所勤務となりました菅野と申します。伊達市の実家に家族五人を残し、単身で北海道に参りました。

私が初めて北海道を訪れたのは、三十年ほど前の学生時代になります。それ以来、出張やプライベート旅行など、かれこれ十回ほどの短期滞在を経験してきました。北海道に住むことになるのは露程も思いませんでした。昔からの憧れと興味深い地でもあり、北海道生活が大変楽しみです。

私の県職員としての職種は、農業技術職です。県職員に採用されて以来、農業の技術普及・試験研究・行政に携わってきました。今回、初めて農業の枠を超えた職場となり不安もありますが、専門を活かしながら、少しでも役に立つよう頑張っております。

農業技術職といっても細かく見れば専門分野があり、私は、桃やりんご、あんぽ柿といった果樹が専門です。北海道では、福島県の桃やあんぽ柿が人気で、伺ったところ、桃がなければお盆を迎えられない、その桃は福島の桃でなければならぬとのこと。福島県民にとり大変有り難い話であり、北海道の皆様には、桃だけでなく、あんぽ柿等の福島県産青果物をより一層味わっていただきたいと思っています。

さて、今冬に発生した新型コロナウイルス感染症は、私達の健康を脅かし、社会活動を制限し、今なお予断を許さない状況です。北海道事務所としても業務や行事が制限され、私自身も北海道の食や文化、観光等を十分に堪能できないのは残念ですが、新しい生活様式を遵守しながら、一日も早く安心した暮らしや仕事環境が取り戻せるよう願っています。

今後とも、県人会の皆様との交流を通して、北海道に触れ、愉しんでいきたいと思っていますので、よろしくお願いたします。

主事 加藤鉄平（出身 二本松市）



四月から北海道事務所勤務になりました、加藤と申します。

実は、大学生の頃は札幌に在住しており、福島学寮（旧・会津学寮）の寮生でもありました。昨年度末の人事異動で北海道行きを言い渡された際には、「両親は「また行くのか」と呆れておりましたが、六年越しの北海道ということで、ご縁があるのだなど感じております。

札幌に住むのは二度目にはなりますが、学生時代とは違った新鮮な視点で、北海道の魅力を感じつつ、福島の魅力をお伝えしていけたらと思います。何卒ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願申し上げます。

余談ではございますが、当方二本松市岳温泉の出身です。源泉は安達太良山の中腹にあり、長さ約8km、自然落下では日本一の引き湯によつて、適度に湯揉みされた温泉を味わうことができます。福島にいらした際にはぜひお越しくださいませ。とこのような地元PRを挟みつつ、結びとさせていただきます。